

アーカイブズ

ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第16号

平成13年10月31日発行



池城親方ほか4人の肖像写真

原本写真 横 11.5cm × 縦 6.5cm

池城 安正 氏 所蔵

写真の裏に『明治四年 未九月廿日』、そして左から人物名『金武親雲上 新崎親雲上 池城親方 具志堅親雲上 山城山戸』と墨書きされている。

中央の人物が池城安規(いけぐすく あんき)で、首里に生まれ唐名を「毛有斐(もうゆうひ)」という。幕末から明治初年の琉球处分期に王府の重職である三司官をつとめ、薩摩・琉球・明治新政府との折衝を行った。一度上京し、数十回にわたる交渉を行い琉球王府の存続のために尽力したが、明治10(1877)年東京で客死した。明治7(1874)年に三司官の職に就任しているので、写真裏の『明治四年 未九月廿日』の記録が撮影した日付だとすると、これは三司官就任前の写真ということになる。

貴重な資料が寄贈される!

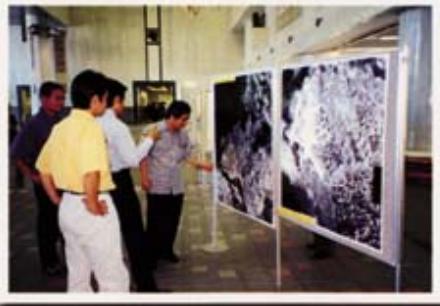
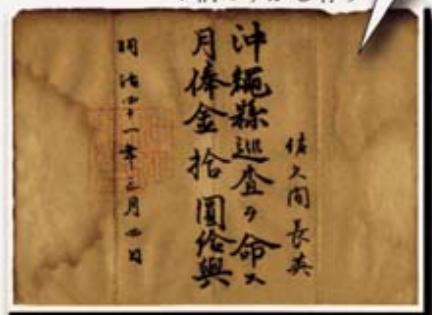
アーカイブス
フラッシュ

平成13年度も、すでに貴重な歴史資料の寄贈を受けました。

- 4月～5月にかけて、照屋榮一氏より、歴代の軍民首脳部や歴代高等弁務官・琉球政府・琉球列島米国民政府の首脳陣等の写真など多数の歴史資料の寄贈がありました。
- 衆議院議員の山中貞則氏（元沖縄開発庁長官）より、島津義久から天正18（1590）年8月21日に、琉球国王尚寧へ送られた書状が沖縄県稲嶺知事に寄贈され、当館へ収蔵されました。
- 8月20日に名嘉地義昭氏より、明治41年の『沖縄縣巡査を命ず』の辞令書他57点の寄贈をうけました。（写真 右）
- 10月2日に与那原町在住のゴードン・ワーナー氏（元米国民政府教育局長）より、沖縄関係写真・地図・文書などの寄贈がありました。全948点の資料には、1944年10月10日の空襲の様子を撮影した写真ネガが含まれています。



*桐のすかし有り



県庁県民ホール展の開催

7月16日（火）から19日（金）の間、県庁1階の県民ホールにおいて、「公文書から歴史資料へ～沖縄県公文書館の役割～」というテーマで展示会を開催しました。4日間という短い期間でしたが、県民が多く足を運ぶ県民ホールでの展示会は、公文書館の役割や機能を広く理解していただくのにとても効果的でした。

第7回資料保存講習会の開催

今回の資料保存講習会は、「和装製本と保存箱作成」というテーマで8月10日に開催しました。夏休み期間中だったので、親子での参加される方も多く、また職場で活用したいと参加された方もいました。実習では皆さん熱心に取り組んで本と箱を完成。質問や意見もたくさん寄せいただきました。



沖縄県公文書館友の会 総会

平成13年度沖縄県公文書館友の会総会が8月4日に開催され、平成12年度の各種報告と平成13年度の事業計画（案）や予算（案）などを議題として進行しました。会長には、引き続き金城功氏が選任されました。

マスメディアも注目！

6月7日のNHK沖縄「太陽カンカン600」で当館の空中写真の整理作業や展示会が紹介された他、10月13・14日の県政広報番組「うまんちゅひろば」でも利用方法や収蔵資料の紹介などが放送されました。この他にも、貴重資料の収集時などは、テレビや新聞で紹介されました。

世界のウチナーンチュ大会記念 企画展

写真に見る近代の沖縄

期間：平成13年10月19日（金）～11月25日（日）
 会場：沖縄県公文書館 展示室（閲覧展示棟1階）

あれ？ 右の龍柱の頭の部分がないわ！



首里城正殿 明治10年代
宮内庁書陵部 所蔵

沖縄にも電車が走っていたんですね。



泊高石と電車鉄橋 明治-大正
伝統工芸館首里琉染 所蔵

この廃藩置県によって、沖縄県が誕生しました。



琉球処分当時の琉球藩処分官一行
明治12(1879)年 熊谷次郎氏 所蔵

右端に屋良座森城と三重城がみえます。



10・10空襲直後の那覇港近辺 昭和19(1944)年
ゴードン・ワーナー氏 寄贈資料

第三回世界のウチナーンチュ大会を記念して、「写真に見る近代の沖縄」というテーマで企画展を開催しています。

明治初期から沖縄戦に至る近代の沖縄が写された三八二枚の写真を展示し、資料の解説においては、和文・英文の両方で記述しています。

ウチナーンチュ必見の展示会です。歴史の一コマを鋭く捉えた写真の数々が、その時代、その場面へと案内してくれるでしょう。

*二百点余りの展示写真を載せた展示図録も好評発売中です。



一部300円

「空中写真」って何？

航空機や人工衛星などから、地球の表面のようすを撮影した写真のことです。

沖縄県公文書館は、1944年以降アメリカ軍が撮影した琉球列島の写真など、米国国立公文書館等が所蔵する沖縄関係の空中写真を、ネガフィルムやデジタルデータで複製し、集めています。

2001年10月現在、同公文書館より、894枚の空中写真画像を収集しました。



「嘉手納・読谷地域」 1945年8月18日撮影

円形の嘉手納ロータリーや、蛇行する比謝川がくっきり写っている。

*この写真は、9インチ×18インチ（約23センチ×約46センチ）サイズのネガフィルム2枚をつなぎ合わせたものです。

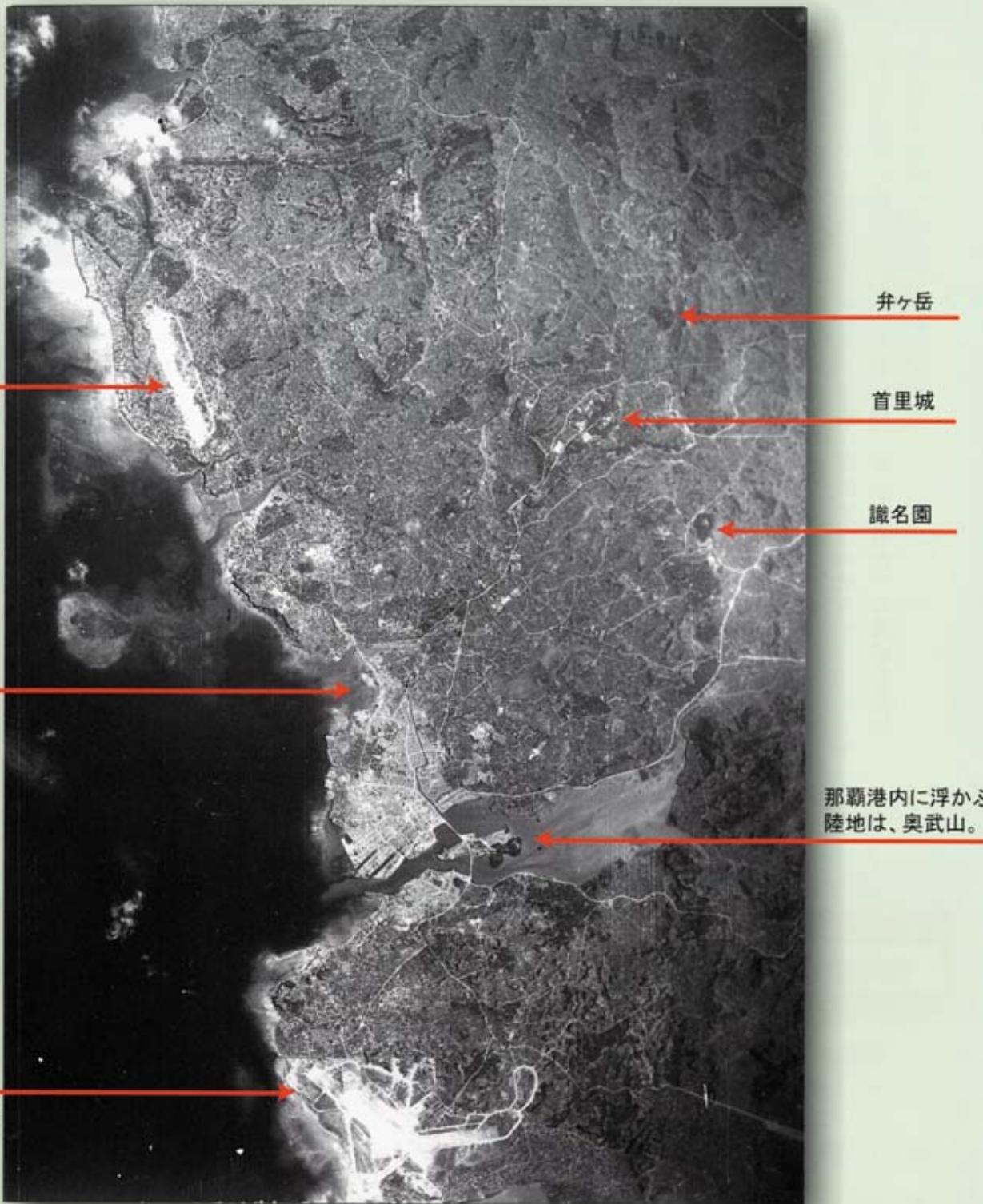


半世紀以上も前の沖縄を撮影した空中写真、一体どのように利用できるのでしょうか？

そもそも、米軍が沖縄戦を有利にたたかうため、戦略地図をつくったり、日本側の軍備情報をあつめたりする目的で撮影された写真です。が、これらの写真は、県民の財産を守る「証拠」として、また沖縄の歴史を考察する「歴史資料」として最近脚光をあびはじめました。

たとえば、沖縄戦の混乱で正確な場所がわからなくなっていた先祖の墓を確認する資料として役立ったケースがあります。また、米軍基地が建設される前の嘉手納の写真に、かつて住んでいた家が写っているのをみつけたケースもあります。

これらの写真には、戦災や、戦後の米軍基地建設及び宅地やリゾート開発などで、過去50余年のあいだに失われてしまった島の風景（海岸線や森などの自然、田畠や建造物などの人工物）が写っています。このため、一級の歴史資料として市町村史の編さんなどにも活用されています。



「那覇・浦添周辺」 1945年2月28日撮影

平成13年度に収集した空中写真のネガフィルムは、

- 1944年10月10日撮影 沖縄本島南部の一部（那覇市街、小禄、与那原）
 - 1945年 2月28日撮影 沖縄本島全域や久米島
 - 1945年 4月 2日撮影 沖縄本島南部（首里城や識名園なども写っている）
- など894枚です。

これらネガフィルムをデジタル化などの整理を行い、平成14年度から利用に供する計画です。

公文書館への行政管理視点



てるや 照屋 えいいち 荣一

沖縄行政機構史
研究会会長

はじめ職員は多士彩々で知られた。文書課でも人材に不足はなく、沖縄史料編集所と歩調を合わせたのはいうまでもない。

沖縄史料編集所の設置に先立ち、文教局に一九六四年「主任史料調査官」が置かれたが直接支配下の琉球政府とあって、時の行政主席はこの資料制度の職員提案に感激された。

「資料館」構想は沖縄史料編集所がてきてから提言されたが復帰により「琉政文書」(USCARとGR Iの統治資料を含む)の扱いをめぐり「文書館」建設運動が始まった。

この公文書管理部門と史料編集部門について、前者は琉球政府総務局の文書課、後者は同じく琉球政府文教局の沖縄史料編集所に由来し、継承されている。

琉球政府の文書課は一九五二年行政主席官房に設置され、内務局を経て総務局に所属し一九七二年の復帰時に沖縄史料編集所と共にいわゆる「琉政文書」を沖縄県に引継いだ。沖縄史料編集所は、一九六七年に琉球政府の文教局に設けられ、復帰後も沖縄県の教育庁に続いたが「事務所なき役所」にもかかわらず所長

県議会でも「文書館の早期建設に関する陳情」が採択され県当局と沖縄開発庁の尽力で一九九五年「沖縄県公文書館」の開館を見た。



閲覧室から Q & A

閲覧室には、沖縄の資料に関する問い合わせが毎日よせられてきます。レファレンス記録簿からいくつかご紹介しましょう。

Q 各地域の字誌に関する資料はありますか？

A 当館では、市町村誌や字誌も収集しています。また、これから字誌の発行を考えている方々の参考になる資料もありますのでご利用ください。

Q 終戦直後の沖縄の地形図はありませんか？

A 昭和23(1948)年12月に米軍が作成した地形図(1:5000)が参考資料室に配架してありますので、自由にご覧になってください。コピーもできます。

Q "Aサインバー"の営業許可に関する資料はありますか？

A "Aサイン"とは、米軍人、軍属の立ち入りが許可された目印です(APPROVED: 許可済みの頭文字の"A")。検索した結果、Aサイン業者に関する資料が1件、営業許可に関する資料が15件あります。

このように、探している資料や利用に関する疑問など、電話やファックスでも可能ですので、お気軽にお尋ねください。

記録保存

私がアーキビストのトレーニングを受けたメリーランド大学は、いわゆる「文書館学」の「メツカ」で、教室以外の場で師と呼べる人に何人も出会うことができました。学費を工面するためにアルバイトをした大学図書館で、連合軍による日本占領時代の出版検閲に関する膨大なコレクションを統括していた故村上寿世さんもその一人です。

村上さんはアーキビストを目指す私に、機会を見つけては貴重な心得を説いて下さいました。その中でも特に印象深かったのが、雑誌の目録採りに関する話でした。検閲文書そのものは一九四〇年代後半のものでしたが、それらを検索するのに欠かせない目録は、それから百年先の世代に照準を当てて作っているとおっしゃるのです。村上さんはこう続けました。「終戦後四年間に渡って日本全土で行なわれた連合軍による全面検閲は、戦後の日本に計り知れない影響を与えたわ。その本当の意味を理解するのに五十年という時間は短すぎる。これらの資料が本当に輝きを増すのは、きっと私たちの子や孫の時代ね。その時に利用しやすいようにしてあげるのが、私達の義務ではないかしら。」「五十年、百年を単位とした」と

村上さんの時間感覚に、私は深い感銘を覚えました。

公文書館では文書の保存期間を表わすのによく「永年」とか「永久」という言葉を使います。公文書は作られた時点で金銭的付加価値の付くものではないため、本や雑誌と違つて捨てる場合にはさほど抵抗はありません。それで、わざわざ「永年保存」とラベルを貼つたり、スタンプを押したりしないと、長期保存につながらないことがあります。しかし、これらの公文書も時間を重ねるに連れて、お金では買えないかけがえのない記録遺産になっていくことは、事ある毎に実証されています。

この長期に渡つて記録を保存するという公文書館機能の最も重要な側面については、我が国全体を見てもまだ広く認知されているとは言えません。その結果、現時点での利用者数のみで公文書館の存在価値を推し量ろうとする向きもあります。

村上さんが生きておられたならおそらくこうおっしゃつてくれたでしょう。「今、利用が少ないと嘆きなさんな。公文書館は記録遺産のガーディアンよ。過去や現在の記録をあなたの方の子や孫にどう引き継いでいくか、それが一番肝心なことよ。」

公文書専門員

仲本 和彦

公文書館では、マイクロフィルム撮影、写真撮影及びデジタル化による複製物の作成によって、資料を収集したり、利用による劣化の防止に役立てています。今回の豆知識コーナーは、複製手段の1つ、「写真」についての豆知識です。

『写真の歴史』

カメラの原点で語源にもなったカメラ・オブスキュラ（「暗い部屋」を意味するラテン語）は16世紀頃ヨーロッパで発明され、ルネサンス時代の画家たちがスケッチを描く道具として使っていました。世界で最初に写真撮影に成功したのはフランスのニエブス（1765～1833）で1826年になります。実用性のある写真法としては1839年にフランスのダゲール（1787～1851）が発明した銀板写真で、これが現在に続く銀塩写真の出発点とされています。このように写真是160年以上の歴史と実績があります。

公文書館で収蔵（複製）している古い写真の一つに、今回表紙に掲載した明治4年撮影の「池城親方と4人の肖像写真」があります。130年経過した今でもご覧のように見ることができます。このように、写真是歴史を正確に写す重要な資料です。

参考文献：『写真の保存・展示・修復』武藏野クリエイト 1996年発

● 平成13年度 企画展

第3回世界のウチナーンチュ大会を記念して、明治初期から沖縄戦に至るまでの沖縄の様相を写真で紹介しています。

期間:2001年10月19日(金)～11月25日(日)

会場:沖縄県公文書館 展示室

テーマ:『写真にみる近代の沖縄』

● 歴史講座の案内

日時:2001年11月2日(金) 午後6時30分～8時

会場:沖縄県公文書館 講堂

講師:野々村 孝男(歴史研究家)

演題:『写真にみる近代の沖縄』

● 入館無料

● 開館時間

09:00～17:00 (閲覧請求は16:30まで)

● 休館日

①月曜日

②国民の祝日(昭和23年法律第178号)に規定する

休日(月曜日と重なる場合は火曜日)

③12月28日～翌年1月4日(年末年始)

④6月23日(慰霊の日)

⑤特別整理期間(年間20日以内で館長の定める日)

● 2001年 11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

(赤色) 休館日

● 2001年 12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

● 歴史講演会の案内

日時:2001年11月16日(金) 午後6時30分～8時

会場:沖縄県公文書館 講堂

講師:高橋 実(国際問題評論家、元共同通信社那覇支局長)

演題:『沖縄返還の舞台裏』

● 平成13年度 伊平屋移動展

収蔵資料の中から地域に関する資料を選び、各地で移動展を開催しています。本年度は、沖縄最北端の島、伊平屋で開催します。

期間:2001年12月1日(土)～16日(日)

会場:伊平屋村歴史民俗資料館

テーマ:『公文書館収蔵資料にみる伊平屋』

● 利用施設

<展示室 閲覧展示棟1階>

公文書等を展示して企画展、常設展を実施しています。

<講 堂 閲覧展示棟1階>

講演会、講座、映写会等を実施する際にご利用いただけます。

<閲覧室 閲覧展示棟2階>

資料の閲覧ができる他、ミニシアター(団体用)、ビデオベース(個人用)で映像資料をご覧になれます。

● 2002年 1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

● 2002年 2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

● 閲覧室の利用方法

- 初めて利用される方は「利用証」の交付をうけてください。その際は身分証明書の提示をお願いします。
- 利用証をお持ちの方は、閲覧申請をして、資料の閲覧ができます。
- 参考資料室の資料は自由に閲覧できます。
- 閲覧室への所持品等の持ち込みは、制限がありますのでロッカーをご利用ください。
- 資料の館外貸出は行っていません。
- 資料の複写ができます。(複写は実費をいただきます。)
- 担当職員が資料に関する問い合わせ・相談に応じます。

沖縄県公文書館だより **ARCHIVES 第16号**
 発行日 平成13年10月31日
 発 行 沖縄県公文書館
 編 集 財団法人沖縄県文化振興会 公文書管理部
 〒901-1105 沖縄県南風原町字新川148-3
 TEL 098(888)3875 FAX 098(888)3879
 URL <http://www.archives.pref.okinawa.jp>

交通の案内

バスをご利用のかたは新川バス停下車(徒歩3分)

・那覇交通(株)市内線1番

・東陽バス(株)91番・96番

